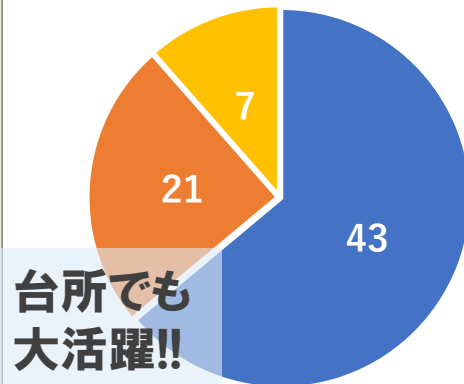


住宅用火災警報器が被害を抑えた「奏功事例」

上越地域消防局管内の奏功事例 (平成18年法制化から～令和7年6月末現在)

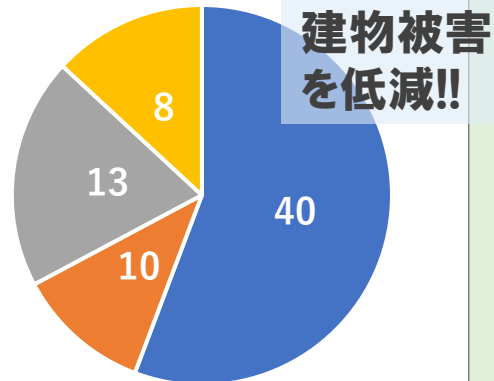
71件

作動場所



- 台所
- 寝室・居室・階段
- その他

被害状況



- 被害なし
- ぼや
- 部分焼・半焼
- 全焼

【事例1 就寝中の早期発見 1】

家人が就寝中に住宅用火災警報器の鳴動とペットの犬の鳴き声に気付き、2階の寝室から階段を降りたところ1階リビングのソファ付近からの火が上がっているのを発見し、台所の水道水及び風呂水で消火したもの。

【事例2 就寝中の早期発見 2】

2階で就寝中、住宅用火災警報器の鳴動に気づき確認したところ、1階脱衣室内が煙で充満しており、熱気を感じたため119番通報する。1階で就寝中だった母親を起こし避難する。カーペットと洗濯機の一部を焼損したもの。

【事例3 ガスこんろの放置1】

家人が台所で鍋を火にかけていることを忘れ2階で就寝。台所に設置していた住宅用火災警報器の鳴動とインターホンの呼び出し音で気付き、こんろの火を止め焦げた鍋を流し台で冷却。隣人が住宅用火災警報器の音に気付き隣家に行ったところ、ポストの隙間から煙が漏れており、119通報したもの。

【事例4 ガスこんろの放置2】

家人がこんろに火をかけたまま失念し外出。近隣住民が煙と臭い、住宅用火災警報器の鳴動に気付き通報したもの。

【事例5 IHクッキングヒーターの放置】

家人が台所のIHで温めていたカレー鍋をそのままにして外出。2階で寝ていた家族がその約1時間後、近隣住人から「すごい音が鳴っている」と連絡があり1階の様子を見に行ったら、台所のIHクッキングヒーターの鳴動を確認、IHを消したもの。

【事例6 ストープ火災】

台所の反射式ストーブにマッチで点火した後、トイレに行ったところ住宅用火災警報器の作動により火災に気がついたもの。反射式ストーブ付近の可燃物が燃えていたため、やかんの水と水道水で消火したもの。